

# 花野たより

NPO法人阿蘇花野協会会報誌  
VOL. 64号 2024年3月31日発行

2024. 春号



## 特集

アンケート調査報告(要約)

認定NPO法人阿蘇花野協会の活動評価について

## 参加募集

令和6年度 春の阿蘇野の花観察会  
2024年4月29日(月・昭和の日)

初夏の阿蘇野の花観察会  
2024年6月8日(土)

春の草刈り  
2024年5月19日(日)

# 認定NPO法人阿蘇花野協会の活動評価について (アンケート調査の要約)

## ～野生の希少植物に支えられて～

認定NPO法人阿蘇花野協会は経済環境の変化に伴って管理放棄された阿蘇東外輪山の一部の草原や植林地を買上げ、“草原の再生と希少植物の復活等”を目的に取り組んでいます。なお運営費は寄付金及び助成金等のみで、会員の年会費はありません。これまでの20年間にわたる活動を評価するために、2023年7月15日に会員(総数309人)を対象にしてアンケート調査を実施しましたので、その結果(概要及び要約)を報告いたします。

調査方法はハガキまたはインターネットを利用し、また調査内容は入会の目的及び野生の花々を観察することにより感じられたことなどを自由記述式で書いて

いただきました。

アンケート回答者は111人(回答率35.9%)でした。アンケートの分析は次のような手順で行いました。最初に自由記述で書かれた各自のアンケート内容を詳細に読み、その主要内容を整理して多変量解析(数量化理論第Ⅲ類及びクラスター分析)で分析しました。その結果、各会員の評価及び効用の特性により5つのグループに分けました。それぞれのグループごとに野草の観察会等で得られた効果(効用)や課題を要約すると以下ようになります。なお会員の方々の生の声(文中では“…”で表示)を引用して説明させていただきます。

NPO法人阿蘇花野協会 理事長  
熊本大学 名誉教授 山中 守



### グループⅠ(33人、29.7%):阿蘇の山野草の観察を目的に入会し、多様な野生の花々に感動

阿蘇山の近くに住んでいて、日頃から阿蘇の花々に興味を持っている方々です。入会の目的の多くは、“野草大好き”や“四季折々に貴重な阿蘇の野の花に出会えるから”など、草原の近くに住んでいるという地理的な有利性が活かされています。

実際に観察すると、“思った以上に種類が多く、ベニバナヤマジャクヤクなどは自分が育てているのとまた違った趣があった”。“スミシなどの草丈が低い植物から草丈が高い植物へと変わり、たくさんの種類の植物を観ることができた”。野の花が季節ごとに観られるという花々の多様性に感動されている気持ちが伝わ

てきます。

また“観察会で希少植物が年々減少していることを知りました。今まで何気なく観ていた花々は、ボランティアの方々の長年の尽力があればこそ…と知りました”。観察会を通じて草原再生活動に興味を示していただいたようです。草原の近くに住んでいることによる有利性と、近くに住んでいても気付かないことなどは観察会を通じて知ることができた…という満足感(効用)を多くの方々が得られていました。



### グループⅡ(31人、27.9%):九州各地からの参加で、阿蘇の山野草と牧野の関係に共感

北は福岡県から南は鹿児島県まで比較的遠方から、阿蘇に咲く山野草を観たくて参加された方々です。移動に伴う経済的負担は大きいですが、それ以上の満足感(効用)を得られています。アンケートのなかに“阿蘇の野の花は控えめで、清楚でした。きれいだろう…って自慢する訳でもなく咲いている。そんな野の花がかわいくてたまりません”。

“夫婦で訪れたとき、ヒメユリが例年以上に咲き誇っていて大変嬉しく思いました”。“このような草原は地域の方々が長い間、牧野として利用しながら守り続けてこられた賜物です”。九州各地から来られた方々は、日頃見る機会が少ない地場産業(農牧畜と草原)と山野草の共生の歴史に気付けられ、移動に伴う経済的負担以上の効果(効用)を得られています。



### グループⅢ(24人、21.6%):草原再生活動(NPO)に共感、山野草を通じた人のつながり

このグループは草原再生活動への認識が高く、また希少植物への関心が高い方々が多いです。入会の目的については、“阿蘇の自然を自然のままに守り育て、後世に引き継ぐという趣旨に感動し賛同”、“立派な活動であり、活動の一員になりたいと思った”などです。

観察を通して、“ここでしか観られない草花を次世代に残していかなければならないと感じました”、また“阿蘇花野協会の管理地は花を楽しめる大切な場所であり、自然を感じる場所です”や、“同じ思いを持つ方々との出会いの場”、“自然の

中にいると幸せを感じます”など、広い視野での評価を得られています。

またこのグループの特徴として、草原再生活動と共に植物に関心が高いけれども高齢や病気のために外出が困難な方が20.8%おられました。アンケートのなかで、“ノハナショウブやヒメユリに彩られた原野は夢のようでした。生きているうちに出会えて良かったです”。NPO活動では金額では評価できない貴重な価値を生み出していることも学ばせていただきました。野生の花々との出会いが人々との共感を生み、新しい人のつながりに結び付けられれば…と期待しています。



### グループⅣ(7人、6.3%):遠方で現地の観察は難しいが、草原再生活動(NPO)に共感

このグループは居住地が東京都から山口県までの方々で、草原から遠いために観察会等への参加が難しい方々です。実際の観察も興味深いのですが、それ以上に草原再生活動の趣旨に共感していただいている方々です。

“阿蘇の希少植物が草と共に風に揺られて咲く姿はとても美しく、ずっと心に残ります。子どもが大きくなったら是非伺いたいと思います”。また“火山活動によって誕生し、人の営みによって長い時間をかけて維持されてきた草原を復元し、維持する取組みに敬意を表します…”。

さらに“観察会で希少な植物に出会えたことも喜びですが、何より広大な草原に身を置き、五感で感じ、草原を維持してきた先人たちの営みに思いを馳せることができました”。ご専門のお立場からアンケートに“日本の野生植物が如何に多種多様に育まれてきたか、今後、未来に向かって大切に守り育てて行く事が、今の我々に課せられていると思います”。…と貴重なご助言をいただきました。このように遠方にお住まいの方々からのアンケート内容から、社会的な広がり(効用)の大切を学ばせていただきました。



### グループⅤ(16人、14.4%):故郷の山野草のような小さな花にも大きな命…に励まされ

故郷を離れて暮らしていると、自然や風景の想い出が阿蘇の山野草を通じて甦ります。たとえば“阿蘇の山や野焼きを眺めながら育ちました。オキナグサなどの野生の花のたくましさやしたたかさに触れることで活力が湧き、謙虚になれます”。また“自然に咲く小さな花にも大きな命…”、さらに“美しい花に元気をもらい、生かされていること…”。

それぞれの人には自分しか分からない苦労や喜びの歴史があり、それが小さな

山野草を観察することにより甦ってきます。草原に立てば、“何もなければ野生の花は減っていくことを観察会で知りました。それには並々ならぬ人々の努力があるのだと思います”。さらに“ある程度手を入れないと強いもの勝ちになり、自然環境を維持することの大切さを改めて実感しました”。アンケート内容から学ばせていただいた貴重な言葉は多くありましたが、その一つが“草花の小さな花にも大きな命…に励まされ”でした。

みと思います。

なおアンケートでご指摘いただいた主な課題としては、情報社会における希少植物に関する情報発信の在り方(説明会・セミナーによる知識・情報の共有化、高齢者への分かりやすい情報提供、観察会での適切な人数制限など)がありました。さらにアンケートの回答率についても検討が必要と思います。今後、改善しながら取り組んで参ります。

一人ひとりのアンケートを読ませていただきながら、一輪の野生の花がそれぞれの人々の心のなかに自由で美しい世界を生み出していることを教えられました。野生の花の美しさに“共感”できることにより、これが人々のつながりを創り出し、さらに豊かさに結び付けられれば…と期待しています。この“共感を生み出す場”が“NPOの草原”になれば幸いです。

過去の草原放棄地(価値ゼロ)から、お金では換算できない貴重な価値を生み出した草原再生活動、これは新たな経済生産性の高い情報社会システム・モデルの試



ツクシシオガマ

令和6年度

## 春・初夏の「阿蘇野の花観察会」のご案内

参加者募集

令和6年度、春・初夏の「阿蘇野の花観察会」を下記の日程で行います。

春はスマシレ類やサクラソウ、ツクシシオガマ、ヤマエンゴサクなど、初夏はベニバナヤマシャクヤク、マイヅルテンナンショウ、ツレサギソウなどが観察できます。

期 日：春の阿蘇野の花観察会 令和6年4月29日(月:昭和の日)＜雨天時は30日に延期＞  
初夏の阿蘇野の花観察会 令和6年6月8日(土)＜雨天時は9日に延期＞

場 所：Pro Natura Reserve阿蘇花野トラスト(阿蘇郡高森町野尻)

時 間：午前10時～12時

参加募集：30名程度

集合場所：阿蘇花野トラスト駐車場(放牧地内の駐車場)

＜9時50分までに集合してください。＞

内 容：阿蘇の野の花の観察および野の花パトロール

持 ち 物：弁当、飲物、帽子、軍手、メモ帳、筆記具など

スマホかタブレット(お持ちであれば)

植 物 メ モ：《春》スマシレ、キスミレ、タチツボスマシレ、ニオイタチツボスマシレ、サクラスマシレ、ツボスマシレ、アカネスマシレなどのスマシレ類、サクラソウ、ツクシシオガマ、ヤマエンゴサクなど

《初夏》ベニバナヤマシャクヤク、マイヅルテンナンショウ、ツレサギソウ、クモキリソウ、ノアザミ、サワギク、カノコソウ、スイカズラ、ミヤコグサ、トチバナニンジンなど



キスミレ



春の草原

## 「春の草刈り」のご案内

参加者募集

初めての取組みとして、「春の草刈り」を実施します。10年以上野焼きを続け「茅野」として維持してきた草原が2haほどありますが、野焼きの中止に伴い保全方法を変えざるを得ません。現状、ほとんど花がないススキだけの野原です。このススキを抑えるために、「春の草刈り」を行います。

ススキが30cmほどに伸びたところを刈ってやると、翌年からススキの草丈が低くなりオミナエシやヒメユリなどがたくさん増える予定です。この時期の草は柔らかく草丈もそれほどありませんので、秋の草刈りに比べると楽です。ご参加いただき、草原が変わりゆく姿と一緒に見ませんか？

期 日：令和6年5月19日(日)＜雨天時は20日に延期＞

場 所：Pro Natura Reserve阿蘇花野トラスト(阿蘇郡高森町野尻)

時 間：午前10時～15時

参加募集：10名程度

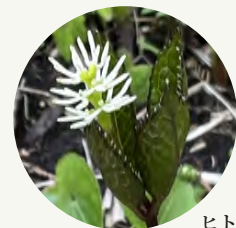
集合場所：阿蘇花野トラスト駐車場(放牧地内の駐車場)

＜9時50分までに集合してください。＞

内 容：阿蘇の野の花の観察および野の花パトロール

持 ち 物：弁当、飲物、帽子、軍手など。

刈払機、混合油など必要なものは協会では準備します。



ヒトリシズカ

- 参加者にはボランティア保険をかけます。

参加希望の方は、阿蘇花野協会事務局まで、e-mailか電話、FAXにて、住所・氏名・電話番号を明記の上、春の観察会は4月24日(水)、初夏の観察会は6月5日(水)、春の草刈りは5月15日(水)までにお申し込み下さい。

◆電話：096-240-2906 ◆FAX：096-300-3339

◆e-mail：info@asohanano.com

- 夏の阿蘇野の花観察会は、7月6日(土)

盛夏の阿蘇野の花観察会は、8月3日(土)に実施予定です。



### 当日の実施確認について

大雨警報発令・台風接近などの時には延期いたします(少雨決行)。当日の実施の有無は朝6時以降に、事務局(TEL:096-240-2906 e-mail:info@asohanano.com)にお問い合わせください。

# 本年度の活動スケジュールです。

NPO法人阿蘇花野協会の令和6(2024)年度スケジュールは、下記のとおりです。  
各活動については事前にご案内をお送りし、参加者確定の上で実施いたします。ふるって、ご参加ください。

●阿蘇野の花観察会 ●草刈り・防火帯作り ■会報誌発行 ★調査研究活動

2024年度の活動スケジュール	
4月	●春の阿蘇野の花観察会 4月29日(月・昭和の日) 予備日:4月30日(火) ※小雨決行 阿蘇花野トラスト地 サクラソウ、フクジュソウ、キスミレ、ヒトリシズカなど
5月	●春の草刈り 5月19日(日) 予備日:5月20日(月)
6月	●初夏の阿蘇野の花観察会 6月8日(土) 予備日:6月9日(日) 阿蘇花野トラスト地 ハナシノブ、ベニバナヤマシャクヤク、ツレサギソウなど ■会報誌「花野たより Vol. 65」発行
7月	●夏の阿蘇野の花観察会 7月6日(土) 予備日:7月7日(日) 阿蘇花野トラスト地 ヒメユリ、ツクシマツモト、ユウスゲ、ノハナショウブなど
8月	●盛夏の阿蘇野の花観察会 8月3日(土) 予備日:8月4日(日) 阿蘇花野トラスト地 ヤツシロソウ、カワラナデシコ、オミナエシ、ワレモコウなど ■会報誌「花野たより Vol. 66」発行
9月	●秋の阿蘇野の花観察会 9月14日(土) 予備日:9月15日(日) 阿蘇花野トラスト地 ハナカズラ、イヌハギ、シオン、オオユウガギク、ヤマジノギクなど ●防火帯作り 9月21日(土) 予備日:9月23日(月・振替休日) ●県支援事業 防火帯作り・防火帯焼き 9月下旬
10月	●草刈り 9月28日(土) 予備日:9月29日(日) ●草集め 10月5日(土) 予備日:10月6日(日) ●刈干パック作り 10月～
11月	●刈草焼き 11月9日(土) 予備日:11月10日(日)
1月	●茅刈り講習会 1月下旬 ■会報誌「花野たより Vol. 67」発行
2月	●茅刈り 2月～3月
3月	■会報誌「花野たより Vol. 68」発行

阿蘇花野協会は、下記の各団体からの寄付・助成金を受け、活動しています



発行



認定NPO法人  
**阿蘇花野協会**  
〒862-0912 熊本市東区錦ヶ丘3番15号  
TEL:096-240-2906 FAX:096-300-3339

今号は山中守理事長が実施されたアンケート調査のご報告を掲載しました。当協会の活動が阿蘇の自然、阿蘇の植物を愛するというだけでなく、このような調査研究面においても実績を重ね、将来のよりよい環境保全に役立てればと願ってやみません。

k.mori@airs.ne.jp (広報担当:森)